

西之山地蔵堂の六地藏石仏

にしのみやまじぞうどうのろくじぞうせきぶつ



文化財愛護シンボルマーク

名称	西之山地蔵堂の六地藏石仏	所在地	加古川市神野町西之山 428
別称	大師堂の六地藏石仏、西之山の六地藏石棺仏、西之山お堂の六地藏	所有者	西之山町内会
数量	1基	指定	加古川市指定文化財
寸法	高 134cm、幅 80cm、厚 21cm	指定分類	考古資料
材質	石造、凝灰岩(竜山石)製	指定名称	六地藏石仏
時代	南北朝時代、康永元(1342)年 8月	指定年月日	平成 28(2016)年 2月 25日



六地藏石仏

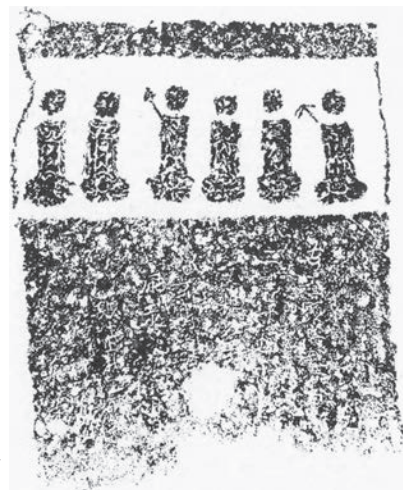
西之山の集落の東側に、お堂と呼ばれる地蔵堂があります。このお堂の中に、大きな石板に六地蔵を半肉彫りした石仏がまつられています。

この石仏は、古墳の石棺材を思い起こさせる板状の大きな切石を立て、その上部に、横一列に配した6軀の地蔵菩薩立像を半肉彫りしたものです。地蔵菩薩は、いずれも蓮華座上に立ち像高は約21cmです。向かって右端の像が幡を持ち、右から4番目の像が捧珠持錫像であるほか磨滅のため詳しくはわかりません。右から2番目の像と左端の像が合掌の像のようにも見えます。

六地蔵像の下の平面に銘文があり「右造顕趣者為／二親（3字不明）頓／証菩提乃至法／界平等利益也／康永元季八月日／願主 上村（1字不明）盛康／敬白」と読める文字が陰刻されています。このことから、この石仏が、南北朝時代の康永元(1342)年8月に、上村の盛康という人物が、両親の供養のために作ったものと考えられます。また、制作年が明らかなこの石仏は、この地域の中世の石仏を考える上で基準となる貴重なものです。

石棺材に複数の仏像を彫り出したこのような形式の石仏は、加古川地域の特色を示すものです。しかし、この切石の石板については、古墳時代の石棺の一部である指摘がありますが、現在のところ石棺材特有の加工痕が確認できていませんので、石棺材かどうかどちらとも判断できていません。

なお、地蔵堂については、中央に弘法大師がまつられていることから、大師堂として紹介されたこともあります。堂内の棟札の記録などから、この堂は六地蔵をまつるための地蔵堂であることがわかっています。



六地藏石仏拓本



西之山の地蔵堂

(拓本／『加古川市史第7巻』から転載、文・写真／宮本)

●参考文献

- 『加古川の石棺と石棺仏』大手前大学考古学研究室(1983年)
- 『写真でたずねる鹿児の石造遺物』加古川市文化財保護協会(1984年)
- 『加古川市史 第7巻』加古川市(1986年)
- 『播磨の石棺仏』小野市立好古館特別展図録(2001年)
- 「文化財ニュース 59号」加古川市教育委員会(2016年)

●キーワード

石仏、石棺仏、六地蔵、石板石仏、彫刻、西之山、大師堂、地蔵堂、

●所在地／加古川市神野町西之山 428

●交通

JR加古川駅発神姫バス「県立加古川医療センター」行「神野西」バス停から西へ徒歩7分
車は加古川バイパス「加古川ランプ」から北へ5.5km

●注意

この石仏は、大師堂内部の正面向かって左側にまつられています。屋外の小窓から内部を見ることはできますが、六地蔵石仏を見学するためには事前に見学申し込みが必要です。詳しくは加古川市教育委員会文化財調査研究センターにお問合せください。